

提出日 2020年 8月 25日

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際連携機構(TF 受入)
-----------------------	---------------	---------------	---------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)		取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑦ (SGU2-2-3)	(SGU2-2-3) 学部・研究科での受入プログラムの開発	2014 年度	2023 年度	必要【必須型】	要
内容					
<p>2013 年度(通年)の受入留学生数約 913 人を 2023 年度(通年)の 1500 人を目標とする。</p> <p>このため、受入短期プログラムを開発・拡大し、2013 年度(通年)の短期受入数約 96 人を、2023 年度(通年)には、全学開発プログラムとして 340 人、学部・研究科開発プログラムとして、235 人の合計 575 人を目標とする。</p> <p>学部・研究科にて、それぞれの学部・研究科の教育・研究領域に適した教育プログラムの開発に努める。</p> <p>学部・研究科で実施するプログラムの実施時期が夏季休暇や春季休暇などの時期に集中するため、受入目標数の 235 人を達成するには宿泊施設の確保が必須である。</p>					
進捗状況を測る 指標	指標名	定義・算式			
指標 1	学部・研究科によるプログラム 受入学生	学部・研究科によるプログラムでの受入外国人留学生			

目標1<指標1>学部・研究科によるプログラム受入学生

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						100人
実績		35	14	80	58	65
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標				235人		
実績						

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
学部・研究科での 受入プログラムの 開発	策定段階					
	2021年3月末 段階		構想・計画 35(実績)	プログラム調整・開発 14(実績)	先行プログラム開始	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2021年3月末 段階	約半数の学部・研究 科でプログラム運用		約7割の学部・研究科で プログラムを運用		235人受入プログラム 運用
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2021年3月末 段階					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016年度	<p>■学部・研究科での受入プログラムの開発 一部の学部で独自プログラムを開発し、留学生受入を実施した。</p> <p>学部・研究科での受入プログラムにより法学部交換学生1名、神学部2名、国際学部 ASEAN プログラム11名の計14名の受入れがあった(聴講生4名を含めると計18名)。2017年度には社会学部の受入プログラムが開始され、各学部での構想が実行に移行しつつあると評価できる。</p>
2017年度	<p>■学部・研究科での受入プログラムの開発 学部での独自プログラムを開発が進み、留学生受入も拡大した。</p> <p>学部・研究科での受入プログラムにより神学部3名、文学部14名、社会学部9名、法学部交換1名、経済学部19名、理工学部22名、国際学部12名の計80名の受入れがあった。</p>
2018年度	<p>■学部・研究科での受入プログラムの開発 学部での独自プログラムを開発が進み、留学生受入も拡大した。</p> <p>学部・研究科での受入プログラムにより神学部4名、経済学部15名、理工学部28名、国際学部11名の計58名の受入れがあった。</p>
2019年度	<p>■学部・研究科での受入プログラムの開発 学部での独自プログラムを開発が進み、留学生受入も拡大した。</p> <p>学部・研究科での受入プログラムにより神学部12名、社会学部10名、総合政策学部6名、理工学部25名、国際学部12名の計65名の受入れがあった。</p>
2020年度	

5. 今後の課題及び方向性

2018年度	<p>○学部・研究科によるプログラムの開発支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル・手順などの整備 ・ビザ申請の必要な書類作成のサポート
2019年度	学部・研究科によるプログラム開発支援に向け、情報提供や協定校の橋渡しを行う。
2020年度	学部・研究科によるプログラム開発支援に向け、情報提供や協定校の橋渡しを行う。
2021年度	学部・研究科によるプログラム開発支援に向け、情報提供や協定校の橋渡しを行う。
2022年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014年度	プログラム運営補助費については、予算化を見合わせます。
2015年度	プログラム運営補助費については、計画の実施を見合わせます。
2016年度	SGU 推進費で対応します。
2017年度	同上
2018年度	—
2019年度	—
2020年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・目標値には至っていないが、正規留学生数が増えているため、このまま継続する。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	・VE/COIL 型教育(オンライン国際共同学習)の推進

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<input type="checkbox"/> 継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	